

宮城県における 復興の現状と取組

令和 7 年 1 1 月 5 日



仙台・宮城観光PRキャラクター
むすび丸



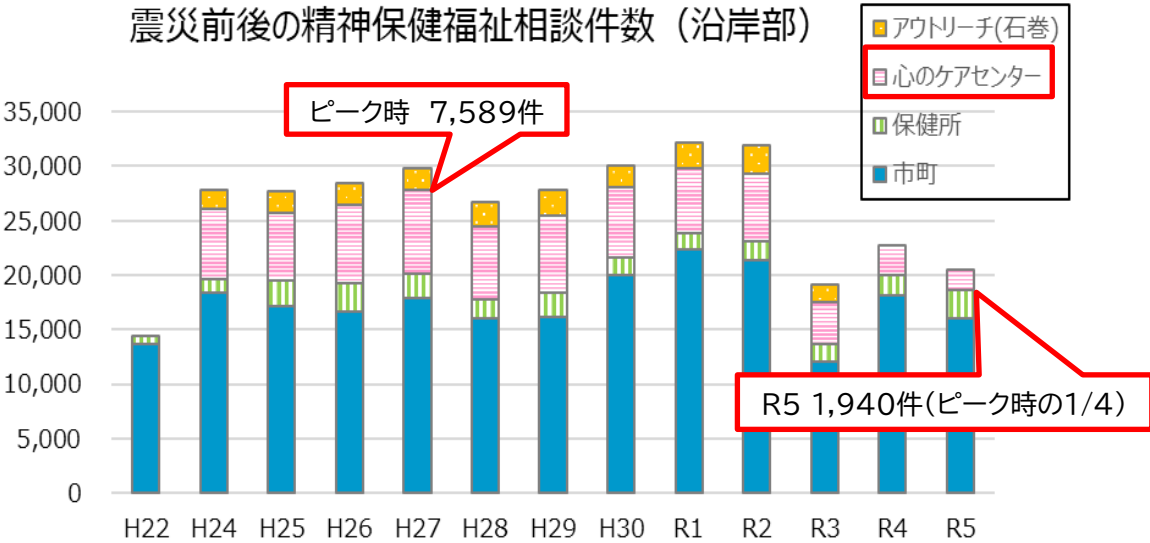
被災者の心のケア ～心のケアセンター運営終了に向けたあゆみ～

概要

- 被災者の震災による心の問題に長期的に対応し、被災精神障害者の医療・地域生活の支援を行う拠点として、平成23年12月に「みやぎ心のケアセンター（基幹センター）」を設置
- 平成24年4月には、甚大な被害のあった地域の支援のため、石巻と気仙沼に「地域センター」を設置

▼ 主な業務（設置調書）

業 務	内 容
住 民 支 援	被災者に対する精神疾患予防・メンタルヘルス改善を目的とした相談・支援
支 援 者 支 援	自治体職員等の支援者を対象とした精神保健福祉活動及び心身の健康維持を目的とした支援
普 及 啓 発	メンタルヘルスに関する啓発
人 材 育 成	メンタルヘルスにかかわる専門職・支援者を対象とした知識の普及と研修
調 査 研 究	東北大学と連携した新たな災害に備えるための調査・研究



2025年9月末 相談支援等の業務を終了

検討の背景

令和元年12月20日
「復興・創生期間」後における東日本大震災からの
復興の基本方針
『心のケアセンターについては、センターにおける相談・
支援対応の実情等を踏まえ、適切な支援のあり方
を検討する。』

関係機関と協議

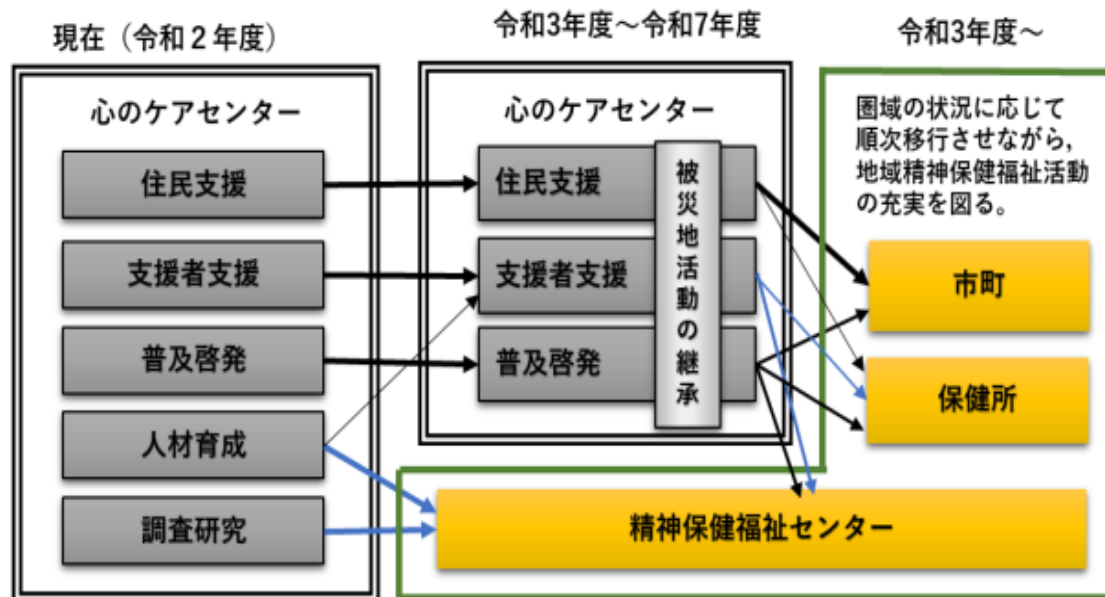
令和2年8月27日
「令和3年度以降の宮城県の心のケア取組方針」
を策定

- 市町・県・関係機関等と連携・協力して地域の精神保健福祉活動の底上げ
- 保健所・精神保健福祉センターの機能強化
- 蓄積された経験の継承

被災者の心のケア ～心のケアセンター運営終了に向けたあゆみ～

移行に向けた取組

＜みやぎ心のケアセンターの業務移行イメージ＞



＜ 目的 ＞

各機関の
相談体制の強化

市町の
人材確保と育成

＜ 県の取組 ＞

①専門職派遣事業
（トレーナー保健師派遣）

②困難事例スーパーバイズ事業

③TIC研修・PFA研修開催（※）

④人材確保等を行う市町への補助

※TIC…トラウマ・インフォームド・ケア（トラウマ体験の影響を念頭に置いたケア）

PFA…サイコロジカル・ファーストエイド

（深刻な危機的出来事に遭遇した人に対して行う人道的・支持的な支援）

今後について

令和7年12月末 石巻・気仙沼の地域センターの閉所

令和8年3月末 基幹センターの閉所 **（みやぎ心のケアセンター運営事業終了）**

県では、市町村のバックアップ・保健所の体制強化のため

上記②③の取組を継続しながら、引き続き心のケアに対応していく

未だ残る復旧・復興工事の現状 ～防潮堤の早期完成に向けて～

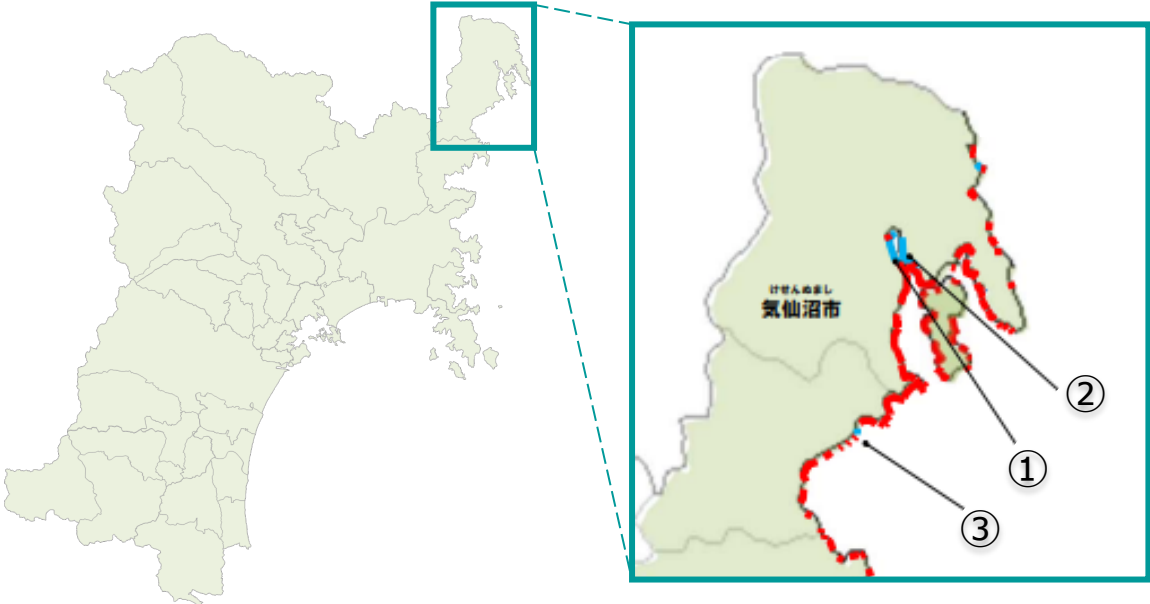
県では、県管理漁港である 5 8 地区の整備を推進してきたが

気仙沼市内の 3 地区が現在も未完成

海岸堤防（防潮堤）の復旧・復興状況 (2025年8月末時点)

区分	事業者	復旧・復興計画		箇所完了		実完成延長 【km】 (E)	実完成率 【%】 (E/B)
		箇所 数 (A)	延長 【km】 (B)	箇所 数 (C)	延長 【km】 (D)		
農地海岸	国・県	98	26.2	98	26.2	26.2	100%
漁港海岸	国・県・市・町	145	78.6	141	74.6	78.1	99%
建設海岸	国・県	66	61.9	66	61.9	61.9	100%
港湾海岸	県	37	52.6	37	52.6	52.6	100%
治山	国・県	23	13.5	23	13.5	13.5	100%
合計		369	232.8	365	228.8	232.3	99%

表中の「箇所完了(延長)」と「実完成延長」は下記のとおりです。
「箇所完了(延長)」＝完了した箇所で行った(完了)した合計延長
「実完成延長」＝「箇所完了(延長)」＋施工中の箇所において部分的に完成した合計延長
※箇所数は地区海岸ベース



【気仙沼漁港】①魚市場前地区／②大浦・浪板地区

【日門漁港】③日門地区

令和 5 年度から一般枠に移行し、
農山漁村地域整備交付金等を活用しながら整備を実施

①の地区は、令和 7 年度中に完成見込み

②・③の地区は、事業完了まで数年を要する見込み



▲日門漁港海岸 防潮堤完成パース図

早期に整備を完了するため、交付金等の**十分かつ継続的な予算の確保と配分が必要**

子ども・若者への教訓の伝承

- 東日本大震災発災から14年が経過し、震災を知らない世代が増加
- 学校では、震災を知らない児童生徒が増え、震災対応の経験を持つ教職員が減少

頻発化・激甚化する自然災害に対応するため
若者の防災意識向上・学校の防災体制の強化が必要

「みやぎ東日本大震災津波伝承館」(以下「伝承館」という) でのボランティア解説員の認定 ▶

- ・小・中・高・大・専門学生を対象として、伝承館でボランティア解説員を募集
- ・応募した学生は、東日本大震災と展示解説について学び、認定を受ける

令和6年1月に第1号を認定→ 現在まで**11人**を認定

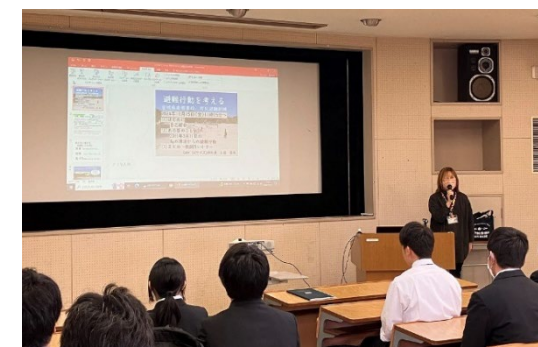


◀「ぼうさいキッズパーク」の開催

伝承館において、防災について学べる親子向けのイベントを実施

学校への語り部派遣 ▶

学校からの依頼を受け、語り部の紹介・派遣を行う



子ども・若者への教訓の伝承

みやぎ防災教育副読本「未来へのきずな」の活用

各教科・道徳・総合的な学習の時間等で、**教科横断的な防災教育を実践**。理科や社会等の授業での活用その他、震災時の経験や教訓について触れ、**避難訓練の事前・事後指導等でも活用**する。



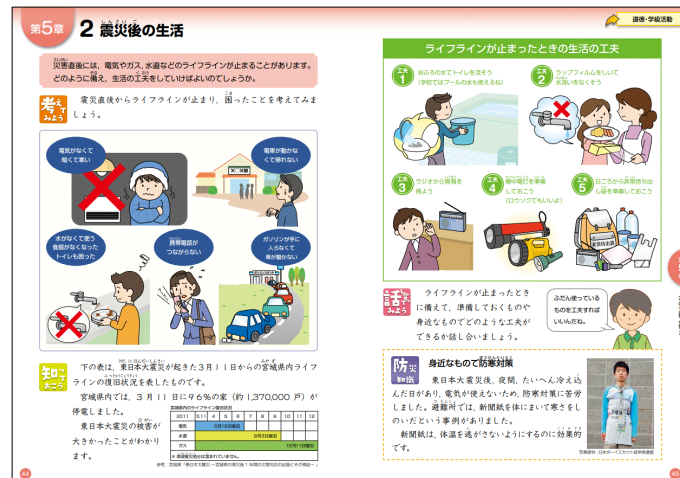
〔副読本の活用例〕

○「地震はいつ起こるか分からない」
【小学校3・4年】



地震の際に慌てないよう考える学習

○「震災後の生活」
【小学校5・6年】



ライフラインの確保を考える学習

他にも…



【園児向け】



【小学校1・2年】



【中学校】



【高等学校】

「未来へつなぐ学校と地域の安全フォーラム」による成果の普及

地域や学校、研究機関等が「**学校安全の取組**」について共有する場として、平成28年度から本格開催。

学校防災における地域や関係機関と連携した取組や、生活安全、交通安全の好事例を紹介。

- ・オンデマンドでも視聴できる体制を構築
- ・令和6年度は県内及び全国から504名が参加

